

橋本健一郎氏のアルミスクラップ7月レポート及び8月見通し

■概況: 前半はイラクやウクライナ情勢などの懸念材料や6月の中国貿易黒字は316億ドルと事前予想の350億ドルを下回り中国の物価が予想を下回ったなどマイナス材料もあったが、中国政府発表の5月の中国製造業PMIは51に上昇したこと、FRBが午後に連邦公開市場委員会(FOMC、6月17~18日開催)の議事要旨を公表しFRBが利上げを急がず米国の低金利政策は当面続くと受け止められたことを好感し上昇。1805ドル(現物後場買い)と前月最終価格から15ドル下げて前半締めとなった。

後半はウクライナ東部でマレーシア機が墜落したことやイスラエル軍によるパレスチナ自治区「ガザ」への地上侵攻をきっかけに地政学リスクの高まったこと、6月の米仮契約住宅販売指指数が市場予想に反して低下したことなどマイナス材料もあったが7月のユーロ圏総合PMI速報値は54.4に上昇し予想の52.8を上回ったこと、6月の欧州自動車販売は前年比4.3%増の123万台と10か月連続増だったこと、欧州のアルミ新地金プレミアムが455ドルと史上最高値に上昇しBOA(バンクオブアメリカ)が今年の世界アルミ需給を13.6万トンの供給不足、来年は50.4万トンまで不足幅が拡大するとの予想からテクニカル買いが入り上昇。

8月4日現在LME(現物後場)1971ドルと前半締めから45ドル上昇してのスタートとなった。

■前月の経済指標: 月間のドル/円レート(TTS)は102.28円→103.74円。日本自動車工業会による自動車生産台数は前年比+6.6%の85万7317台。日本自動車販売協会連合会による自動車販売台数(軽除く)は同+0.6%の28万5886台。国土交通省統計による新設住宅着工戸数は同-9.5%の7万5757戸であった。

貿易指標を見ると、財務省貿易統計による輸出はアルミ新地金が同+960%の318トン、2次合金が同+57.3%の1589トン、スクラップが+19%の1万5567トン。輸入は新地金が同+28.9%の14万5372トン、2次合金が同+16.3%の8万9749トン、スクラップが同+85.3%の906トン、合金スクラップは同+40.5%の4600トンであった。

前月の国内指標を見ると、日本アルミニウム協会発表の圧延品生産出荷動向では板類・押出生産合計は同+9.2%の17万8876トン。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は同+0.2%の7万602トンであった。

■見通し: 今はロシア・ウクライナ情勢の行方及び中国の景気対応に一喜一憂した月となった。

自動車生産は85万7317台で前年同月の80万4125台に比べ5万3192台増(+6.6%)となり10か月連続で前年同月を上回った。乗用車は72万7606台で4万7895台増(+7.0%)と10か月連続のプラス、ト

ラックは11万7512台で4630台増(+4.1%)と12か月連続のプラス、バスは1万2199台で667台増(+5.8%)と3か月ぶりにプラス。輸出は前年同月比4.0%減少(実績)。6月の国内自動車販売台数(軽除く)は28万5886台で前年比+0.6%と1か月ぶりプラス。内、乗用車+0.3%、貨物+2%、バス+14.1%となつた。

6月の住宅着工戸数は7万5757戸(前年同月比9.5%減)、季節調整済年率換算値で88.3万戸(前月比1.3%増)で前年同月比は4か月連続マイナス。このところ消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあり実数では前年同月比で減少。一方、季節調整値では前月より若干の増となつた。分譲マンションの着工については建築費の上昇や人手不足等の影響により契約・着工が先送りされているとの事業者の見方がある。このような状況や持家における受注の減少が今後着工の減少にどの程度の影響を与えるのか等について引き続きその動向をしっかりと注視していく必要がある。前年同月比では持家が5か月連続減(19.0%減、季節調整値の前月比5.0%増)、貸家が16か月連続増(1.8%増、同1.5%減)、分譲住宅が5か月連続減(11.9%減、同14.4%増)、分譲マンションが5か月連続減(24.5%減)となつた。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前年比+0.2%の7万602トン。アルミ圧延・押出品生産数は+9.2%の17万8876トンと10か月連続プラスとなつた。

圧延に関して、缶材は3万7571トン(6.3%)でボトル缶(主にコーヒー缶)の増加により前月のマイナスからプラスに転じた(6月のビール系飲料の出荷量は前年同月比)。自動車が1万1928トン(3.5%)で



輸出向け自動車材の増加等により10ヶ月連続でプラス(6月の新車販売台数は前年同月比+0.4%の45万3千台)。輸出は1万8398トン(35.3%)、海外工場を立ち上げる圧延メーカーの素条輸出の増加等により3ヶ月連続でプラスであった。

押出しに関して、建設は4万2668トン(0.3%)、サッシ・ドアは微減となるもカーポート向け需要の増加等で外装材が伸びたことなどによりプラスに転じた。自動車は1万1396トン(3.4%)、輸出向け自動車材の増加及びトラック好調等により10ヶ月連続でプラスとなった。

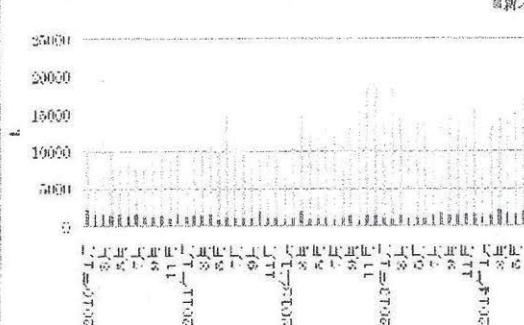
輸出は前年比で新地金が+960%の318トン、2次合金が+57.3%の1589トン、スクラップが+19%の1万5567トン。LME価格が2000ドル近辺まで上昇したこと背景に輸出増と見解。輸入は前年比で新地金が+28.9%の14万5372トン、2次合金は+16.3%の8万9749トン、スクラップは+85.3%の906トン、合金スクラップは+40.5%の4600トン。前月に続き消費増税前の駆け込み需要の反動も少なく自動車関係を中心に好調な内需及び住宅着工も堅調であることから輸入増。

アルミ需給に関して、住宅関連は新設住宅着工数が前年比-9.5%。持家-19%、貸家-1.5%、分譲住宅-11.9%、分譲マンション-24.5%と大幅減少、消費税前の駆け込み需要も終了し4ヶ月連続減少で消費税特需も終了か。自動車は生産が10ヶ月連続上昇の+6.6%、また7月の国内販売台数が前年比+0.6%と1か月ぶり微増、販売は微増ではあるが1か月ぶり増加、また生産は堅調のため来月以降に注目。消費税前のかけ込み需要の反動から2本柱の住宅が減少傾向にあった。ただ自動車は販売生産共に戻しており共にどの水準で落ち着くか注視したい。

輸出	4月	5月	6月			
				新地金	2次合金	スクラップ
新地金	212t	148t	318t	+23.6%	+14.2%	+960%
前年比	+23.6%	+14.2%	+960%			
2次合金	1431t	1388t	1589t	+78.4%	+33.8%	+57.3%
前年比	+78.4%	+33.8%	+57.3%			
スクラップ	13710t	15005t	1万5568t	-0.5%	-17.4%	+19%
前年比	-0.5%	-17.4%	+19%			

アルミ輸出推移

■スクラップ
■2次合金
■新地金



輸入	3月	4月	5月			
				新地金	2次合金	スクラップ
新地金	11万9714t	15万5907t	14万6372t	+25.7%	+15.5%	+28.9%
前年比	+25.7%	+15.5%	+28.9%			
2次合金	8万8204t	9万8206t	8万9749t	+45.6%	+8.2%	+16.3%
前年比	+45.6%	+8.2%	+16.3%			
スクラップ	787t	794t	906t			
前年比	+0.96%	-3.2%	+85.3%			
合金スクラップ	3445t	3733t	4600t			
前年比	+12.8%	-1.9%	+40.5%			

アルミ輸入推移

■新地金
■2次合金
■スクラップ

